

留 学 生 通 信

バーレーンの生活文化と教育制度

Lifestyle and Educational System in Bahrain



アハメッド ブチリ
AHMED BUCHEERI

■2006年茨城大学機械工学専攻博士前期課程修了

■主として行っている業務・研究

・(独)日本原子力研究開発機構 学生研究生、水銀ターゲット容器用バブリングノズルの開発

■所属学会および主な活動
日本機械学会

■通学先

茨城大学 大学院機械工学専攻博士 後期課程2年
(〒319-1195 茨城県那珂郡東海村白方白根 2-4)

■連絡先

(独)日本原子力研究開発機構 (J-PARC センター物質生命科学ディビジョン 中性子源セクション)
E-mail: bucheeri.ahmed@jaea.go.jp

1 自己紹介

私は茨城大学大学院機械工学専攻の博士後期課程2年生である。バーレーン大学を卒業し、大学院での研究を完了するために2003年4月に来日した。現在はJAEA((独)日本原子力研究開発機構)と共同研究しており、J-PARC(大強度陽子加速器施設)の水銀ターゲットに関する研究に携わっている。

2 バーレーンについて

バーレーンは、ペルシャ湾の中央に

位置する大小33以上の島々からなる群島国家(図1)であり、首都はマナーマ(図2)である。全面積は688km²で沖縄県奄美大島の面積に相当し、人口はおよそ70万人ある(39%の外国人の大部分はインド、フィリピン、バングラデシュ、スリランカ人)。イスラム教が国教として信仰されている。公用語は、アラビア語と英語であり、ペルシャ語とヒンディー語もよく聞かれる。バーレーンの冬は涼しく穏やかな気候で、夏は湿度が高く非常に高温となる。天然資源としては、優れた漁獲量、大量の石油と天然ガスを誇る。

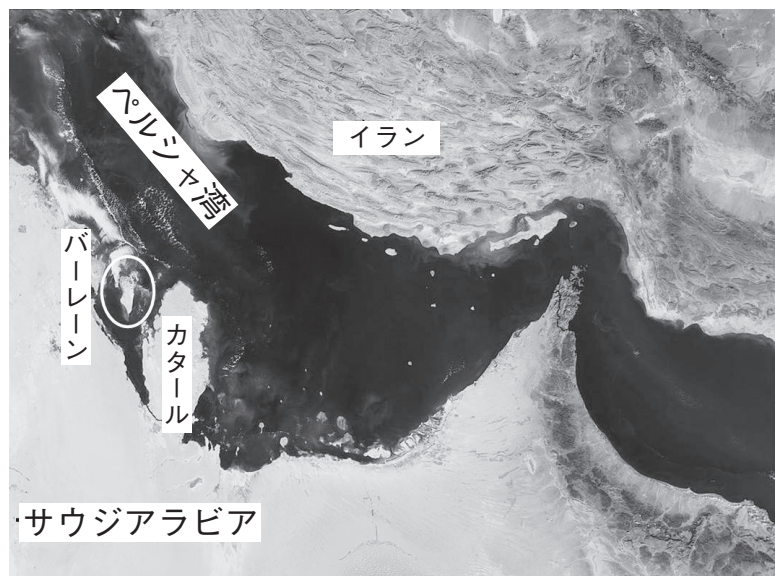


図1 ペルシャ湾からみたバーレーンの位置



図2 バーレーンの首都マナーマの風景



図3 世界遺産の一つバーレーン要塞

3 生活文化

バーレーンは、ガルフのアイデンティティと現代的な基盤とをバランスよく融合している。バーレーン人は寛大であることが知られており、モスクと教会が隣接している。

バーレーンは、住宅、学校教育、健康管理、スポーツ、その他の活動で高いクオリティを誇っている。ライフスタイルは現代的、安全かつ和やかで、家族が住みやすい環境である。

近代的でありながらイスラム文化がまだ存在し、訪問客はすぐに、バーレーン人が海外からの来客者を暖かく歓迎し、親しみやすく友好的な人々であるということがわかる。このため、最高級のホテル、レストラン、ビーチ、伝統的な船旅行があるバーレーンは、アラビアの国々の観光の中心となっている。また、背後にある長い歴史、芸術的な展示物、古代遺跡などは観光客にとって魅力的である。バーレーンとサウジアラビアをつなぐ25kmの長橋キング・ファハド・コズウェイ、生命の木、バーレーン要塞(図3)、油田、バーレーン国立博物館は多くの観光客の関心の的となっている。さらに近年

では、マナーマ近郊にF1サーキットが建設され、バーレーンGPが開催されている。

4 バーレーンの大学教育に関する概要

大学教育について述べる前に、バーレーンの学校教育について説明する。学校教育は日本と同様で、6年間の小学校教育、中学校教育と高校教育がおのおの3年間行われる。大半は公の学校だが、いくつかは私立の学校も存在する。予算が政府から援助されている公の学校は、無料で教育が受けられる。男女共学の国立学校は、すべてのレベルで男女が分かれている。女子は小中高すべてのレベルで制服があるが、男子は小中のみで高校に上がると制服がなくなる。

バーレーンの主要な大学は1986年に設立された国立バーレーン大学である。芸術、科学、工学、教育、法律、情報技術、経営学の七つで構成されている。教育システムはアメリカ式で、アラビアとイスラムの専攻を除いては、教育言語には英語を使用する。入学試験は必要ない。専攻の学生選抜は、高校での成績に準じて決定される。そ

の代わりに、主専攻に進むことができる学生には資格認定試験が課せられ、その成績によって、必要とされる基礎課程を履修しなければならない。

大学における科学研究センタは、環境と産業の研究を促進、組織するためにバーレーン国や外国の政府、企業、民間との共同研究を推進している。日本、ドイツ、フランスほかの国際的文化の研究センタ、交通開発研究センタは、教育と発展において重要な役割をになっている。

そして工学は、機械、化学、電気&エレクトロニクス、都市システム&建築の四つの分野で構成されている。学士号を修め卒業するために4年かかる。大学のシステムとしては、卒業のためには必須の単位数を取得する必要があるという点は日本の大学と同様であるが、大学生生活の4年間で研究室での研究活動は存在しない。代わりに、学生は専門の選択科目を履修しなければならない。教授との定期的なミーティングによって最後の年を通して卒業のプロジェクトを完了する必要があり、口頭のプレゼンテーションを伴う論文の提出が求められる。